



NHO Nishigunma Hospital

ウイズ

— No.64 —

平成23年10月(2011年)

編集 独立行政法人 西群馬病院
発行 国立病院機構

電話 0279-23-3030

FAX 0279-23-2740

E-mail:nishigun@nng.hosp.go.jp

http://www.hosp.go.jp/~wgunma



勇姿堂々

薬剤師 鴛田 春一郎

今夏開催された「群馬ステーションキャンペーン」において、SL企画が大きな注目を集めました。キャンペーンを契機に、JR東日本は貴重な産業遺産である蒸気機関車を後世に伝え残すため、C61 20を復元しました。D51 498とC61 20が群馬県内を駆け抜け、多くの人々を魅了しました。

目次

- * 第3回ふれあい看護体験を実施して1
- * ふれあい職場体験について2
- * 雨ニモマケズ風ニモマケズー納涼会、盛大に開催さる3
- * 「がん化学療法看護」認定看護師資格を取得して4
- * 歳事記～伊香保まつり・蘆花祭～4
- * 研修会報告5

シリーズ

- * 診療科紹介6
- * 健康シリーズ7
- * 医療安全管理室だより8
- * 重症心身障害児(者)病棟だより9
- * 春夏八景11
- * 栄養管理室だより12
- * ボランティアだより13
- * ICT部会だより14
- * 地域医療連携室だより (地域医療機関の紹介)15
- * がん相談支援センターのお知らせ16
- * 診療方針・看護の理念17

独立行政法人 西群馬病院の基本理念 国立病院機構

患者さまと共に考える医療

1. 専門性の高い良質な医療を推進します
2. 十分な情報を提供し、生活の質 (QOL) を尊重します
3. 生命の尊さと人権を尊重し、安全な医療を提供します
4. がん・呼吸器疾患・重症心身障害児(者)の専門病院として、社会に貢献します
5. 健全な経営と適正な運営に努めます

第3回 ふれあい看護体験を実施して

副看護部長 渡部 祐子

平成23年8月5日(金)に高校生を対象に「ふれあい看護体験」を開催しました。近隣の渋川女子高等学校、渋川青翠高等学校、沼田女子高等学校、高崎北高等学校から高校1年生2名、2年生13名、合計15名の参加がありました。

白衣に着替えてから大会議室にて鎌田看護部長の挨拶、オリエンテーション、病院・看護の概要説明後に白衣姿でやや緊張した面持ちで体験病棟に向かいました。病棟における体験時間は約2時間と短い時間でしたが、看護師と一緒に血圧測定の練習、車いすに乗る患者体験、看護師と一緒にベッド上で洗髪や手・足浴の介助、患者さんとの会話など体験してもらいました。



第3回ふれあい看護体験

体験終了後の意見交換では初めて足浴や洗髪を看護師と一緒に実施した学生から、「患者さんとのコミュニケーションもとりやすく、患者さんも気持ちよさそうだったので私も嬉しかった。」という感想でした。そして看護師の仕事について「患者さんとふれあう事ができてこれからの将来を決める上でとても良い経験になりました」「人として成長できるお仕事だと思いました」「担当の看護師さんや患者さんがとても優しく楽しかった。さらに看護師になりたいと思いました。」などの感想がありました。



看護師との意見交換では、「看護をされていてどのようなことを大切にしているか」、「今後に向けて応援メッセージ」など生の声を看護師から聞くことで学生達にとっては参考になったようです。また、

病院の印象では「看護師さん達がとても仲が良く楽しそうだと思いました。」「患者さんへの細かい配慮や患者さんがやって欲しいことを常に先回りして行なう姿勢に感動しました」という意見がありました。



アンケート結果から進路を選ぶにあたり、今回の体験が「大変参考になった」(78.6%)、「参考になった」(21.4%)と良い結果でした。来年度も今年の経験をもとに更に良い体験ができるよう企画・運営していきたいと考えています。関係者の皆様ご協力ありがとうございました。

ふれあい職場体験について

庶務係長 和久井 研司

昨今、特に中学校において社会的な教育の一環として職場体験学習が行われており、当院も例年、生徒さんの受入れをしてきたところではありますが、本年度も6月14日(火)～6月16日(木)の3日間、渋川市立金島中学校の2年生の男子2名が当院へ職場体験に訪れました。

事前に担任の先生に付き添われて病院へ挨拶に来た生徒さんの様子は、緊張の面持ちで、ぎこちなさそうな様子でした。院内で職員同士が挨拶を普通に交わしている様子を見せると、生徒さん達も自覚したらしく、一生懸命大人達に挨拶しようと頑張っていました。なかなか大きな声が出ないようでした。

実習当日は、2人とも白衣姿に名札をぶら下げ、さながら「医療人の卵」といった体で、見ていてなんとなく微笑ましく思えました。実習内容としては3日間を通して、リハビリテーション科、薬剤科、放射線科、検査科等の各部門をまわりました。

リハビリテーション科では、患者さんと共に筋力トレーニングを体験しました。薬剤科では、実際の調剤作業を見学したり、麻薬の取扱い及び危険性について薬剤師より説明を受けました。放射線科では、CTやMRIなどの機器について見学し、説明を受けました。検査科では心電図・エコー・肺機能・聴力検査等の各種生理検査や血液検査及び細菌検査などいろいろな検査について見学し、説明を受けました。また、顕微鏡で実際にかん細胞を見たり、肺組織に触れてみたりもして、とても興味深そうに取り組んでいました。生徒さん達は、このように各コメディカル部門の現場体験を通じて、病院には、お医者さんや看護師さん以外にも様々な職種の人達が携わっていることを実感したようです。

私も職場体験学習の病院事務担当者として生徒さん達を案内したり、一緒に話をしたりする中で色々と感じる事がありました。自分が学生の頃なんてこの様な職場体験の機会はありませんでした。将来の職業について真剣に考えた事もなかったし、職業の肩書きは知っていても実際の仕事内容については何もわかっていませんでした。ですからこのように若いうちからイメージだけでない現実の職場を体験できることはとても貴重で有意義なことであると思いました。また、頼りなげであるけれど

も、生徒さん達の純真な様子は「初心忘るるべからず」といったことを逆にこちらが教えられているように感じてしまいました。

各職場の方々の理解と協力の上にこの様な実習が行える訳ですが、おかげで生徒さんは、世の中の仕事が様々な人や部門との協力の上で成り立っていることを知る事ができたと思います。忙しい中、快く生徒さんへのレクチャーを引き受けていただいた院内各部署の皆さん、そして将来の重要な医療の担い手となる(?)中学生諸君、どうもお疲れ様でした!



雨ニモマケズ 風ニモマケズ 納涼会、盛大に開催さる！

放射線科医長 氏田 万寿夫

超大型の台風6号が日本列島を縦断中の平成23年7月20日、西群馬病院互助会の総会および納涼会が真新しいアネーリ渋川にて催された。互助会は職員全員で構成される総勢366名の組織であり、納涼会は日ごろ顔を合わせることがほとんどない職員が所属部署の垣根を越えて親睦を深める数少ない場の1つである。当日は猛風雨にもかかわらず会員の3分の1にあたる122名が出席した。

互助会総会のセレモニーの後、大同団結を唱える斎藤龍生院長のスピーチ、次いでいつも笑顔の蒔田富士雄副院長の乾杯で納涼会の幕が切って落とされた。今年は例年の着席形式から趣向を変えてバイキング形式の立食パーティーである。テーブル席での“安定した食物供給”を望む人にとってはいささか不満を生じかねない立食スタイルではあるが、自分の食べたいものを好きなだけ食べることができ、自由気ままにテーブルを移動して多くの人と歓談できるこの形式こそ会の趣旨に沿うものであろう。実際、グラス片手にいくつかのテーブルを渡り歩く御仁や、両手にビール



瓶を握りお酌に廻る奥方の姿はまさしく交歓の場であった。

半ば過ぎ談笑の渦の中、恒例のビンゴタイムを迎えた。ところ狭しと並べられた豪華景品に対する響めきが静まらぬうち、和久井幹事が最初のナンバーを声高らかに読み上げた！一さて、ここからはグラスを持つ手は止まり24個の数字のマス目とにらめっこ、夢と希望に胸膨らむ束の間のひとときである。コールされる数字に聴き入る一瞬の静寂と次の

瞬間の歓声（悲鳴？）、そしてどこからか「立直（リーチ）！」の声。続々と増えるリーチの数に心臓はいくらか高鳴り、そしてついに来たBINGO！の第一声。「えっ誰なん??」とその人に注がれる視線。

こうして納涼会は、その3日前のなでしこジャパンのWorld Cup優勝に匹敵する興奮のままお開きとなった。このお陰で多くの職員は、その後到来した猛暑を乗り切ることができたのではなかろうか。年末の病院忘年会が楽しみである。

FIN



「がん化学療法看護」認定看護師資格を取得して

副看護師長 永井 香恵

平成22年10月から半年間、国立看護大学校で研修を受け、認定看護師受験資格を得て、23年5月に受験、6月末に合格し、がん化学療法看護認定看護師資格を取得しました。半年間の研修では、最新のがん化学療法治療についての講義はもちろん、そのほかに、認定看護師として活動を行う上で必要な看護管理や看護倫理、コンサルテーション、統計や研究論文の見方などを講義で学びました。また、がん化学療法患者・家族のアセスメントや意思決定を支える看護援助、セルフケア支援等も講義やグループワーク及び臨地実習にて学びを深めました。研修の中で患者さんが、がんと診断され、人生の最期まで、がんサバイバーとしてその人らしく生きていけるよう支

えていくことが看護師の重要な役割と再認識しました。患者さん・家族はこれからの人生への希望を治療に託して、命をかけて治療に臨んでいます。私達抗がん剤投与の責任を負っている医療者が、抗がん剤の薬効を損なうことなく確実に投与する事が重要であると考えます。そして、患者さんが安楽に治療を継続できるように、副作用対策を安全かつ適正に行うことが必要と考えます。

今後、認定看護師としての活動を通してがん化学療法が、安全、確実、安楽に実施できるよう、院内におけるがん化学療法看護の整備、看護の質の向上に努めていきたいと思えます。



～静かな温泉街の360段の石段を御輿が練り歩く～

伊香保まつり・蘆花祭

管理課長 若林 信久

当院の近隣の伊香保温泉では、当地ゆかりの明治の文豪「徳富蘆花」(代表作不如帰等S2.9.18没)の業績をたたえ、命日である9月18日に蘆花の追悼式「蘆花祭」を行います。これに引き続き、19・20日は「伊香保まつり」で温泉街の石段の上にある上野国三之宮伊香保神社の例大祭です。伊香保神社の本神輿、10数基の樽御輿や山車が加わり温泉街や町内に練り出し、夜は勇壮にご当地名物の石段街を伊香保神社まで練り上がります。なかでも樽神輿は肩で担ぐ神輿ではなく腰で揉むといい、おしくら饅頭のようなようです。また、勢い余り石段を転げ落ちることもしばしばあり、当日は大雨のなか伊香保の町はスリリングな祭り一色に包まれました。



〈日本三大名段〉

伊香保の石段街は山形県の山寺、香川県の金比羅と並ぶ日本三大名段のひとつです。

〈日本三大うどん〉

伊香保名物水沢うどんは、秋田県の稲庭うどん、香川県の讃岐うどんと並ぶ日本三大うどんのひとつで、独特のコシとツヤが人気です。



雨中の石段を揉みあげる本神輿



研 修 会 報 告

●平成23年度幹部看護師(看護師長等)管理研修Ⅰを受講して●

看護師長 恩幣 和子

国立病院機構本部において、13日間管理研修を受講しました。北海道から九州のNHO病院から70名の参加人数でした。この研修は、管理能力の向上を図ることで看護管理上の指導的役割・教育運営上の指導的役割が果たせる能力を養うことを目的とし、研修内容は講義とパネル討議でした。講義では、効率的な病院運営をしていくには、看護師の役割として病棟間でのコミュニケーションがとても重要であり、患者が何を求めているのか患者のニーズをすくい上げ、病院全体の視点で捉えることが大切である事を学びました。また、これからの社会に求められる人材は、自ら仕事に対し、常におもしろさを見出すことができる人、ゆとりをもって仕事ができる人、心が通うコミュニケーションができる人であると講義で話していました。このような人材が病院の協働者として働き続けるには、よい環境づくりと働きやすい職場づくりをしていくことが、なにより大事であることも学びました。私は、講義の学びから、人とのつながりを大事にし、人を尊重して思いやりをもって看護できる看護師であるよう支援していきたいと思えます。

パネル討議は①医療安全管理体制の充実②看護職員の効果的な教育支援③病院の活性化と労務管理④

病院経営における看護部門の果たす役割等の4つのテーマから、私は②のテーマで14名のグループで討議をしました。言葉一つひとつを言語化して、用語の定義づけをすることで、言葉を理解して相手に伝えることの大事さを痛感しました。

グループ討議の学びは、看護師という専門職業人は、自ら学ぶ能力を持っていることに気づかされ、その看護師が自ら成長できるよう支援することが大切であり、人は成長を続ける存在であることをこのグループ討議を通して確認することができました。「効果的な教育支援」とは、意図的に、計画的に継続して関わることで、個人の自己実現のための能力開発に向けて、共に学び共に変化すること、という共通理解をしました。この研修での学びを活かし、病院で働く看護師が主体的にやりがいをもっていきいきと働けるよう意図的、計画的に継続して支援していきたいと思えます。



●チーム医療推進のための研修1(NST)に参加して●

1病棟看護師 平方 明伸

6月20日～6月24日、東京医療センターにて、国立病院機構関東信越ブロック主催で行われた「チーム医療推進のための研修1(NST)」に参加しました。臨床栄養管理における各部門の課題の認識やネットワーク体制の向上を目的として開催され、薬剤師、管理栄養士、看護師、臨床検査技師、理学療法士などの職種が参加する研修となりました。

私は、「NSTにおける栄養や薬剤の基礎知識を得る」「他院の実際のNST介入や、様々な視点からの介入方法を学ぶ」等の目的を持って研修に参加しました。

研修の中では、専門性の高い講義の他に、実際に他院で使用されている機材、実施されている検査を見学する機会も多く、例えば、造影や内視鏡による嚥下機能評価など、当院では経験しにくいことも学

習できました。

NSTにおける各部門の必要性を改めて実感しました。以前、看護師はチームの中で、他分野に比べ専門性に欠けると感じていました。しかし、講義の中で看護師はベッドサイドで得る情報を提示し、チームにおいてのコーディネーターとしてスタッフから情報を引き出すことが重要と聞き、看護師の役割において認識を新たにすることができました。

今回得た知識や技術、実際の介入場面の見学を活かして、チームの力を十分に引き出す関わりができるよう、努力していきたいです。また、本研修はNST専門療法士の資格取得条件の1つでもありますので、資格を取得し、チームに貢献したいと考えています。

今回は7月より新設された 精神腫瘍科です

精神腫瘍科医長
まじま たけひこ
間島 竹彦



このたび国立病院機構西群馬病院に赴任いたしました、間島竹彦と申します。平成3年に群馬大学医学部を卒業後、群馬大学の神経精神医学教室でお世話になりました。大学院を卒業後、2年ほど関連病院に出向した以外はずっと大学で勤務しておりました。大学では、精神科外来での一般診療と、コンサルテーション・リエゾン精神医学、院内の緩和ケアチームに携わっておりました。平成15年から週に1度、西群馬病院に非常勤で勤務を開始して、緩和ケア病棟や一般病棟での患者さんの精神的な対応を行ってきておりました。

西群馬病院では、新たに精神腫瘍科を立ち上げ、専従の緩和ケアチームの医師として入院中のがん患者さんの症状緩和を主治医やスタッフの方々と協力してお手伝いしたり、がん患者さん以外でも、コンサルテーション・リエゾン精神医学としてせん妄や抑うつ、その他精神疾患を診て、身体的治療の障壁になりうる精神症状を緩和できるよう、仕事をしたいと思います。また、患者さんのみならず、いわば「第二の患者さん」ともいうべきご家族の心理的サポートも行いたいと思います。「精神腫瘍科」という名前は耳に馴染まない方も多いと思いますが、馴染まないぶん、新たに何かお役に立てることもあろうかと思い、頑張ってみたいと思います。赴任して2カ月が過ぎましたが、幸いなことに依頼件数も増えてきております。

大学以外をほとんど経験していない私は、まさに「井の中の蛙大海を知らず」の状態であると思います。謙虚に、誠実に、をモットーに、「精神科の医者がいてくれてよかったな」と、皆さんに思っただけのような、「役に立つ精神科医」を目標に仕事をしたいと思います。至らぬ点はいかとは思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

がん検診を「地域がん診療連携拠点病院」で受けてみませんか。

検診の種類

★肺がん検診（ヘリカルCT、喀痰細胞検査） 費用 10,000円（消費税込み）

※肺がん検診はCT検査のみの場合7,000円（消費税込み）となります。

★消化器がん検診（胃・十二指腸ファイバー、腹部超音波検査、便潜血反応、直腸指診）費用 15,000円（消費税込み）

※ただし、オプションとして、1.肝炎検診（2,000円（消費税込み））2.糖尿病・高脂血症検診（1,000円（消費税込み））を付加できます。

ご予約・お問い合わせ

地域医療連携室 電話0279-23-3294

※群馬県内では、西群馬病院と他7病院が「地域がん診療連携拠点病院」に指定

我が国に多いがん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん等）について、住民がその日常生活圏域の中で全人的な質の高いがん医療を提供できる病院

外科系診療部長 横田 徹

乳がんは日本国内では近年患者数が増えている疾患のひとつです。2011年現在 **1年間に5万人が発症し、1万人が死亡**していますので死亡率20%の疾患といえることができます。増加している理由は生活様式の欧米化による中性脂肪の摂取増加にあると言われていています。欧米の乳がん発症率は日本よりはるかに多いので、日本でも今後ますます増えてくることが予想されます。乳がんの現在の新しい知見についてご紹介致します。

1. 乳がん患者さんの乳がん発症後10年生存率はこの40年の間にホルモン（内分泌）治療、抗がん剤治療、放射線治療が進歩して再発率は約半分に減少しました。しかし日本では乳がん死亡者数は増加しています。この原因として最も考えられるのは乳がん発症率の増加と**約23%という乳がん検診受診率が低いこと**にあります。西群馬病院来院患者でも発見動機で最も多いのは検診ではなく自己腫瘍触知です。どんなに診断方法、治療方法が進歩しても早期に受診して頂かないと有効ではありません。検診を受けないことの主な理由は①私は家系でもないし乳がんとは無縁だと思っていた。②検診に行くのは面倒だし仕事の都合をつけるのも大変だ。③マンモグラフィーは痛いと聞いている。などです。現在当院で乳がん治療を受けている患者さんはほとんどが家系内で初めての方ばかりですので①は間違いです。それからマンモグラフィーも撮影法などが改良されて痛くなくなってきました。検診発見乳がんは自己触知乳がんよりも乳房温存術（乳房部分切除）の割合が多く、脇の下のリンパ節手術も一部で済み後遺症も少なく済む可能性が高いです（センチネルリンパ節生検）。
2. 乳がんになりやすい人についてご説明いたします。
 - ①肥満（体脂肪率の上昇）、高血圧、糖尿病などの生活習慣病を持っている方。コレステロール値の高い方。
 - ②検診などで乳腺症を指摘されたことがある方
 - ③血のつながった人が乳がんになられた方（現在は例外が多いです）
 - ④ご結婚、出産経験のない方（これも例外が多いです）
 - ⑤ホルモン治療などをお受けになったことがおありの方
3. 乳がんの初期症状についてご説明いたします。
 - ①ほとんどは無痛性腫瘍です。痛みのある場合は乳腺症を合併していることが多いです。しかし1割の乳がんは痛みを伴います。
 - ②乳房の変形、凹み、皮膚の変化、乳頭からの血性分泌液など

以上のように、乳がんは肺がんや消化器がんよりも早く発見すれば治癒可能性が一層高い病気です。乳がんが怖い病気だと思っているのは検診を受けないまま進行した状態で乳がんを発症している方が数多くいらっしゃるからなのです。繰り返しますがご家族のために健康でいたいとお考えならば是非とも検診を受けましょう。また自己触診方法を学習して自己触診も行うようにしてください。

医療安全管理室だより

医療安全管理係長 櫻井 益代



また失敗してしまいました。東京からの帰路、高崎には途中停車しない新幹線に乗ってしまいました。私は、医療安全を担当するようになってから、「日常生活の中にも『医療安全』に何か役立つことはないか」と考えることがたびたびあります。今回はそのことについて書いてみます。

今年は公私にわたり都内へ出る機会が多く、新幹線をたびたび利用しました。どこかへ出かけるときには電車の時刻表を調べたり、今は携帯で検索したりときちんと調べてから行動する人が多いと思います。高崎は長野・上越の両

新幹線が通り本数が多く便利なことを良いことに、ずぼらな私は、路線バスに乗るような感覚で「来た新幹線に乗れば良い」という気持ちが常にあり、停車駅を調べてから乗る習慣が身についていません。さらに「高崎に停車しない新幹線があるはずがない」という思い込みがありました。ところが、時間帯によっては東京と新潟・長野をより短時間で結べるように、高崎を通過する新幹線があるのです。常に停車駅を確認しないで乗っていたため、軽井沢や湯沢経由で高崎に戻ったことが2度3度。一度失敗したら学習するはずがなかなか「確認行動」が身につかず、自分が嫌になり落ち込みました。

今年7月・8月のヒヤリ・ハット報告では、容量不足の注射を実施しそうになったり、週末で曜日の違う注射を実施したりと、患者影響レベルは0ですが、6Rを正しく確認するという原則を守らないケースが目立ちました。6Rとは、Right 患者・Right薬剤・Right目的・Right用量・Right用法・Right時間を言います。医療事故の構造分類は「してはならないことを実施してしまった」と「するべきことを実施しなかった」の2つ視点があります。今回、「停車駅を確認せず新幹線に乗車する」という私の行動パターンと、6Rを正しく確認してから実施する約束を、途中から確認しだすパターンでは、まさに「するべきことを実施しなかった」ことの分類に入ります。注射の確認も、停車駅の確認もするべきことで、行動パターンとして身につける以外に方法はありませんし、そのことが思い込みエラーを防止できるのです。

今回私は、自分が乗車した新幹線は高崎に停車しないことに大宮の手前で気付くことができ、あわてて飛び降り次の新幹線に乗り換えました。気付かなければ、また湯沢のキオスクで柿の種を買って帰る羽目になっていました。何度も痛い思いをして、やっと少しは学習できたようです。



重症心身障害児(者)病棟だより

第4回群馬県知的障害者(児)摂食・嚥下研究会 開催当番施設からの報告

療育指導室長 戸次 義文

近年、障害者の高齢化に伴い摂食・嚥下障害による誤嚥性肺炎が多発し、また障害者の多くは正しい摂食・嚥下法を身につけないまま成長している状況がある中で、安全でより良い摂食・嚥下療法を見出そうと、歯科医師をはじめ障害者施設などの職員が県内に知的障害者(児)摂食・嚥下研究会を立ち上げました。



この研究会は役員構成の世話人が持ち回りで開催しており、今年は当院の蒔田副院長が当番世話人となり療育指導室が事務局を担って運営してきました。

今年で第4回目を迎えた研究会は7月24日(日)群馬大学荒牧キャンパス教育学部講堂で開催され、群馬県、埼玉県、栃木県の関係施設などから歯科医師、歯科衛生士、看護師、理学療法士、言語聴覚士、養護学校教諭、保育士など様々な職種が集い、総勢延べ160人が参加しました。

午前中は前橋赤十字病院の摂食・胃瘻外来の山川治先生(研究会代表世話



人)によるグループワーク形式の実践講習会、及び群馬大学教育学部准教授の吉野浩之先生による基礎講習会が行われました。それぞれの講習会にはこれから勉強を始める初心者からベテラン職員まで101名の幅広い方々が集まり先生の講義を熱心に聴き入っていました。

午後の研究会では当院の真保主任保育士が総合司会を務め、6名の歯科医師や言語聴覚士などから日頃の取り組みで成果を上げている摂食療法の症例発表があり活潑な討論

が行われました。その後、蒔田副院長が座長を務めて特別講演が行われました。講師は西群馬病院の重症心身障害病棟へ8年間継続してご指導いただいた千葉県在住の歯科医師宍倉潤子先生に依頼しました。先生より口腔機能訓練についての基本と実践に役立つ手法などについてお話していただき、参加者からは多くの質問が出され、予定していた時間が超過するほど盛況でした。

今回の研究会では11社の企業から協賛をいただき、会場各所に栄養補助食品、口腔ケア用品など展示販売コーナーを設け参加者からの関心を集めることもできました。

研究会当日まで6ヶ月の準備期間がかかり膨大な実務量で困惑した状況もありましたが、アンケートに「分かり易くて大変勉強になった」「職場で生かせる内容だった」「また参加したい」など書かれてあり、それを読んだ瞬間にこの間の疲れは一挙にとれました。

研究会成功のためご尽力いただきました院内外の関係各位に感謝申し上げます。



音楽療法の取り組み

保育士 小坂橋 由江

音楽は私たちの心を癒し、楽しい生活を演出してくれます。病棟の中に流れる音楽で季節を感じることもできます。音楽は聴覚、視覚などの感覚器官へ刺激を与え、寝たきりの状態でも身体運動を誘発する力を持っています。

音楽療法はこの音楽の持つ様々な生理的・心理的作用を有効的に活用して障害児者の心身に良い影響を与え、障害や疾病、ストレスなどから生じる問題を解消、軽減、改善し発達を促進することを目的にしています。

重症心身障害病棟では今年から本格的にこの音楽療法を導入した療育活動を開始しました。日本音楽療法学会認定の音楽療法士の先生に月1回来院して頂き指導を受けながら、毎週火曜日に5名の利用者を対象に実施しています。

活動は毎回作成されるプログラムに沿って行われます。最初はピアノによるリズムカルなメロディーに合わせて療法士（リーダー）が伸びやかな歌声で参加者ひとり一人の名前を呼び掛けて始まりの挨拶をします。次に耳慣れた季節の曲を一緒に歌いながら発声・発語を促します。プログラムが進行していくと楽器を用いた活動が展開されます。楽器に触れて伝わる音や振動を感じたり、鈴、タンバリンなど軽い楽器を持たせて曲のタイミングに合わせて振ったり叩いたり音を楽しみます。時には大きな太鼓、時にはシンバルなどいろいろな楽器を使ってその音のダイナミクスを感じると身体の動きが誘発されます。最後はしっとりとしたメロディーで余韻を残して終わりを告げ、リラクゼーションで運動の弛緩とコミュニケーションを図ります。

活動を開始してから5ヶ月が経過しました。音楽療法に参加している利用者は明らかに笑顔が増え、ピアノの音を聴くだけでうつむいていた顔を上げながら身体を動かし始める様子も見られるようになりました。快い刺激をもたらす心と身体の安定とQOL向上に効果がある音楽療法をこれからも積極的に取り組んでいきます。



ジャンベを叩いて音と振動を味わう



一対一でかかわる音楽療法



月一回音楽療法士による直接指導

春夏八景

光陰矢のごとし、爽やかな春が訪れてから既に紅葉を愛でる時節となりました。

ここでは、皆様より頂いております華やかな写真でやすらぎと微笑みのひとときをお楽しみ下さい。



春



夏





栄養管理室だより



～今が旬！！季節の食材をとりいれよう～



管理栄養士 伊東 祥幸

日ごとに秋の色が深まる今日この頃ですが、夏の疲れはいかがでしょうか。過ごしやすい季節となり、夏バテで疲れた体を回復させる“食欲の秋”がやってまいりました。この季節ならではの食材から栄養を取り入れて、芸術・読書・行楽・スポーツなど様々な秋を過ごしたいですね。今回は、いま旬を迎えている2つの食材をご紹介します。

秋が旬の味覚その① 秋刀魚



名前の由来のとおり細長く、体形・色が刀に似ている秋の魚‘さんま’です。さんまは良質のたんぱく質源であり、ビタミンDなど多くの栄養を含んでいます。また、さんまの脂肪には、DHA（ドコサヘキサエン酸）、EPA（エイコサペンタエン酸）といった不飽和脂肪酸が多いのも特徴です。この脂は、血中の悪玉コレステロールを増えにくくしたり、血液を固まりにくくして血管がつまるのを防いだりする効果があります。

購入時には、目の回りが透明であり、背の青色が鮮やかで、全体に光沢があるものが新鮮で良いでしょう。その中でも、口の先と尾の付け根が黄色くなっているものは、脂がのっている証なのでぜひ確認してみましょう。



秋が旬の味覚その② くり

栗は穀類・芋類と同じ様にでんぷんが多く、たんぱく質やビタミン、特にビタミンB1を多く含み、効率よくエネルギーをつくるのに役立ちます。他にも、葉酸やカリウム・亜鉛などのミネラル、食物繊維も多く含まれます。これらの栄養素は、むくみの予防、便秘の改善や、肌の調子を整える効果を持ちます。栄養バランスがよく、少量でも高い栄養を摂取する事ができますが、カロリーが高いため食べ過ぎには気をつけたいところです。

栗を選ぶ時は、果皮に張りがあり、ずっしりと重みがあるものが良いでしょう。時間が経つと水分が飛んで実が収縮し、重みがなくなって味・風味が落ちてしまうため、購入したら早めに食べるようにしましょう。和菓子・洋菓子や栗ごはんなど、バラエティー豊かに使える食材をぜひお試しください。



ボランテ ィア だ よ り

医療福祉相談室 山田 尚子

いつもボランティアの方々には、様々な心くばりや気遣いを頂きとても感謝しています。

この度も、NPOボランティアサロンぐんまさんと当院通院中の患者さまより、「ぜひ闘病中の患者様に使って頂きたい」と、お手製のタオル帽子をたくさんご寄付下さいました。

さっそく、広く配布いたすために、ポスターを作成し病院内の各所に貼って案内し、とても嬉しかったので今回そのポスターを掲載します。

優しさは勇気を与え思いやりは強く見守っていますと、丁寧に一針ひと針込められたタオル帽子は手に取った瞬間に感じられます。

多くの誰かが、たったひとりの誰かのためにする心の豊かさって、なんてあたたかくって素晴らしいのでしょうか。本当にありがとうございました。

がんサロンでタオル帽子を無料配布します

NPO・ボランティアサロンぐんまと当院通院中の患者様より、ぜひ闘病中の患者様に使って頂きたいとタオル帽子の寄付をいただきました！

タオル帽子とは？

一枚のタオルから、裁縫が少なく済む型紙を用いて作る、手縫いの帽子です。岩手ホスピスの会（盛岡市）で闘病中のがん患者さんに贈る為に始めた活動で、現在では全国各地に広まっています。

中には草木染め（写真左）や、手ぬぐいで作った帽子（写真右）もあります。

使ってみての改善点や要望等ありましたら、医療福祉相談室までお声掛け下さい。

※なくなり次第配布を終了します。数に限りがございますので、お一人様一つまでお願い致します。

ICT部会 だより

志賀毒素 産生腸管凝集性大腸菌

臨床研究部長 澤村 守夫

前回に引き続き大腸菌を話題にする

2011年5月から7月にかけてドイツやEU/EEA域内で、もやしを介したと考えられるベロ毒素(志賀毒素)産生大腸菌O104:H4のアウトブレイクが起こった。大腸菌の血清分類は特異的なO抗原(リポ多糖体)やH抗原(鞭毛タンパク)の同定によって分類され、5つの病原性クラス、すなわち、腸管毒素原性、腸管病原性、腸管出血性、腸管侵入性、腸管凝集性大腸菌に分けられる。今回の流行株は腸管凝集性大腸菌に分類されるが、遺伝子解析から志賀毒素2や薬剤抵抗性因子の遺伝子が含まれる点が、他のO104:H4株と異なる。腸管出血性大腸菌と腸管凝集性大腸菌のハイブリッド大腸菌が水平伝播によって生じたと考えられる。

ベロ毒素は、腸管出血性大腸菌が産生し菌体外に分泌する外毒素である。これが宿主細胞のリボゾームに作用し、タンパク合成を阻害する。ベロ毒素は、アフリカミドリザルの腎臓上皮由来の培養細胞に致死的な細胞毒性をもつことから、発見された。ベロ毒素には種類があり、志賀様毒素と同じベロ毒素1と、それと異なる構造をもつベロ毒素2およびこれらの亜型がある。

Active subunit 1個とBinding subunit 5個から構成されるA1B5型のタンパク質で、Binding subunitが、宿主細胞の細胞膜のガングリオシドのGb3 (Gal-Gal-Gal-セラミド)に結合し、エンドサイトーシスによって細胞内に取り込まれ、Active subunitだけが細胞質内に入る。Active subunitはリボゾームの28SリボソームRNAの4324番目のアデノシンに作用して、その糖鎖を切断しアデニンを切り出すN-グルコシダーゼ活性をもつ。この1塩基の変化で、新しいアミノアシルtRNAがリボソームに結合できなくなる。タンパク質の伸張ができず、タンパク合成が阻害され、最終的に、細胞は死滅する。

ベロ毒素は、腸管上皮に作用して出血性下痢を起こす。血液中に吸収され、全身に移行し、Gb3ガングリオシドの血管内皮に富む腎臓に作用し、溶血性尿毒症症候群を起こす。急性脳症も起こす。溶血性尿毒症症候群は、様々な原因によって生じる血栓性微小血管炎による急性腎不全の総称であり、(1)破碎赤血球を伴った貧血、(2)血小板減少、(3)腎機能障害を特徴とする。この疾患は腸管出血性大腸菌の重症合併症であり、子供と高齢者に起こりやすい。

地域医療連携室だより 地域医療機関の紹介

桜井医院 院長 桜井 芳樹

渋川市東町の下郷通りで外科内科を開業しております。西群馬病院には、たまに患者さんをお願いしている状況です。

当院は、先代の院長が昭和15年に当地で開業したのが始まりで、因みにその年に小生が生まれております。第二次大戦中の休診の後、戦後間もなく再開し、昭和29年より医療法人桜井医院となり、救急告示病院としておもに交通事故の負傷者の診療に取り組んでおりました。私はと言いますと、昭和41年に医科歯科大学を卒業し第二外科に昭和45年まで在籍し、その年、事情により群大第一外科に移籍してまいりました。48年まで在籍しましたが、父親の急死により、止むなく、病院長を引き継ぎました。前年に病院を新築したばかりで、借金がそっくり残っており、まるで借金の為に身売りを強いられると云った風情であったことでした。それからは、常勤医は多い時でも二人、後はパート医を群大、医科歯科大から回してもらい、救急医療、消化器外科に取り組んできました。当時の生活は、24時間拘束される状況が週に4-5日あり、これを30年間続けて来ました。使命感と達成感に支えられ、続けられたのだと思います。その後還暦を迎えたのを境に、体力、気力の衰えも自覚するに付け最早これまでと、思いなして、一気に無床診療所へと転換して現在に至っております。現在の生活は10年前のそれと比べると、雲泥の差、まさに別世界に暮らす感があります。



桜井院長

それにつけても、最近の医療の有り様は嘆かわしい限りで有ります。医療費の抑制を至上命題とするあまりマスコミを使って医者たたきを策し国民の医師不信を煽り地域医療の崩壊をもたらしてしまいました。この状況を改善改革していくのは至難の業と思われまます。

地域の医療に携わる‘医療人’が声を大にして主張していくことが大事と思います。若手の諸君に期待しております。

桜井医院
〒377-0008
渋川市渋川1970
TEL 0279-22-2360
外科・内科

独立行政法人国立病院機構西群馬病院 がん相談支援センター

ご相談方法

- 電話相談・窓口相談は、**事前予約制**になっています。
相談予約受付は、
地域医療連携室 担当:山田(医療ソーシャルワーカー)・山浦(医療ソーシャルワーカー)・神長
電話 0279-23-3294 又は0279-23-3030(代表)内線217-487-214まで
(受付時間は、平日9:00~17:00です)
- メール相談は、下記にて終日受け付けておりますが、回答は若干の日数を要する場合がございます。
E-mail : nishigun@nng.hosp.go.jp

各種がん分野の相談日時

(電話・窓口相談は予約制です。相談は無料です。窓口相談はお一人30分以内でお願いします。)

	分野	相談員	電話相談				窓口相談				メール相談
			曜日	時間帯	曜日	時間帯	曜日	時間帯	曜日	時間帯	
1	肺がん	斎藤 龍生	火	10:00~12:00	木	10:00~12:00	月	15:00~15:30	水	15:00~15:30	月から金
		富澤 由雄				火	13:00~14:00	金	13:00~14:00	月から金	
		川島 修				木	9:00~10:00			月から金	
2	乳がん・甲状腺がん	横田 徹	水	14:30~16:30	金	13:00~14:00	水	14:00~16:30	金	13:00~14:00	月から金
3	食道・胃・大腸がん	小林 光伸	金	13:00~14:00			金	13:00~14:00			月から金
4	肝臓・胆・膵がん	蒔田富士雄	金	10:00~12:00			木	13:00~15:00			月から金
5	血液・造血器がん	澤村 守夫	月	13:00~14:00							月・火・水
6	緩和ケア(ホスピス)	小林 剛	火	13:00~14:00			火	13:00~14:00			月から金
7	その他(1~6以外)	蒔田富士雄	金	10:00~12:00			木	13:00~15:00			月から金

*メール相談の受付時間は、9:00~17:00

セカンドオピニオン担当医表

科 別	予 約 時 間	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日
呼吸器内科 (肺腫瘍)	午後2時~	-	富澤 由雄	-	-	-
	午後3時30分~	斎藤 龍生	-	斎藤 龍生	-	-
呼吸器外科	午前中	-	-	-	川島 修	-
血液内科	午後2時~	澤村 守夫 松本 守生	-	-	澤村 守夫 磯田 淳	-
乳腺・甲状腺科	午後2時30分~	横田 徹	-	横田 徹	-	-
消化器外科	午前中	蒔田 富士雄	-	-	蒔田 富士雄	-
放射線科	午後3時~	-	松浦 正名	-	-	-
緩和ケア科	午後	-	-	小林 剛	-	小林 剛

対象者：原則として患者さま本人、患者さまの同意を得た家族
お問い合わせ先：TEL0279-23-3294 地域医療連携室(直通) 費用：30分毎に5,250円

診療方針

- 1.がん、特に肺がん・肝がん・造血器腫瘍等を中心とした悪性腫瘍の診断治療を一層強化する
- 2.結核患者の県内拠点病院として質の高い医療を提供する
- 3.重症児（者）の療育については、各職種の連携を密にし、チーム医療の充実を図る
- 4.PCUについては、患者の満足度の更なる向上を目指して、全人的ケア（肉体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛に対するケア）を充実させる

看護の理念

患者さまの立場にたった最善の看護

- 1.患者さまの生命および人権を尊重します
- 2.安全で適正な看護に努めます
- 3.思いやりと真心をこめて看護します
- 4.患者および家族の皆様と共に考える看護に努めます
- 5.知識・技術を向上させ、専門性の高い看護を志します

患者さまの権利

- 1.最善の医療サービスを受ける権利
- 2.人格・人権を尊重される権利
- 3.知る権利
- 4.自己決定権
- 5.プライバシーを保護される権利

外来診療担当医表（平成23年7月1日～）

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医
消化器内科	5診	オオツカ トシユキ 大塚 敏之	5診	タカムラ ノリアキ 高村 紀昭	5診	オオツカ トシユキ 大塚 敏之	5診	ヤマザキ クンダイカンゾウ 山崎(群大肝臓)(AM)	5診	イリエ エミ 入江 江美
呼吸器内科	7診	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	7診	カミテ 群大(上出)	7診	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	7診	トミザワ ヨシオ 富澤 由雄	7診	ヨシノ レイコ 吉野 麗子
	8診	ヨシイ アキヒロ 吉井 明弘	8診	ミウラ ヨウスケ 三浦 陽介	8診	ツチヤ ユキコ 土屋友規子	8診	ニシオカ マサキ 西岡 正樹	8診	ワタナベ サトル 渡邊 覚
血液一般内科	3診	マワタリ モモコ 馬渡 桃子	3診	サワムラ モリオ 澤村 守夫	3診	マツモト モリオ 松本 守生	3診	マツモト モリオ 松本 守生	3診	サワムラ モリオ 澤村 守夫
	4診	イソダ アツシ 磯田 淳	4診	ミヤザワ ユリ 宮澤 悠里	6診	マワタリ モモコ 馬渡 桃子(PM)	4診	イソダ アツシ 磯田 淳	1診	血液内科 (新患のみ)
消化器外科	2診	マキタ フジオ 蒔田富士雄(AM)	6診	コバヤシ ミツノブ 小林 光伸			2診	マキタ フジオ 蒔田富士雄	4診	オカノ タカオ 岡野 孝雄(AM)
	6診	コバヤシ ミツノブ 小林 光伸								
呼吸器外科					6診	カワシマ オサム 川島 修(AM)	6診	カケガワ セイイチ 懸川 誠一(AM)	6診	カワシマ オサム 川島 修(AM)
乳腺甲状腺			2診	ヨコタ トオル 横田 徹	2診	ヨコタ トオル 横田 徹			2診	ヨコタ トオル 横田 徹
	2診	ヨコタ トオル 横田 徹(PM)								
緩和ケア	6診	コバヤシ ゴウ 小林 剛(PM)			4診	コバヤシ ゴウ 小林 剛(PM)			4診	コバヤシ ゴウ 小林 剛(PM)
整形外科									6診	ワタナベ ヒサオミ 渡辺 秀臣 (第一PM入院のみ)
精神腫瘍科	外来 指導室	マジマ タケヒコ 間島 竹彦								
放射線科	放	マツウラ マサナ 松浦 正名								

新患・再来予約外 受付時間 8時30分～11時00分
※担当医が変更になる場合もございますので事前に電話でご確認下さい。

編集後記

東北では大震災による津波と原発事故によって今なお10万人余りが避難生活を余儀なくされている。都会では夏の猛暑による熱中症が昨年より5倍も増加したという報道があった。新潟では7年前と同じ豪雨により被害が拡大し、またもや行方不明者が出てしまった。自然界の猛威は時や場所を問わず多くの人の命を奪った。医療現場で働く私たちは人の命の重みを日々痛感している。故に私たちに何ができるのか、何をしなければならぬのか、傍観しては行かないと胸が痛む。何でもいい、何か一つ社会のため、人のために尽くせる人間でありたい。このウィズにはそんな気持ちが込められているように思う。

(Y・T)

独立行政法人 国立病院機構西群馬病院

〒377-8511 群馬県渋川市金井2854 TEL 0279-23-3030 FAX 0279-23-2740 <http://www.hosp.go.jp/~wgunma>